

Sakai Community に対する Commercial Affiliate としての貢献

The contribution as Commercial Affiliate to Sakai Community

吉田光男

兼松エレクトロニクス株式会社第一ソリューション営業本部第一営業部

あらまし：弊社は2010年12月にSakai Foundationに承認頂き日本初のSakai Commercial Affiliateになり、2011年3月には日本のSakai CommunityであるJa-Sakaiのメンバーとなった。本報告では弊社がSakai Commercial Affiliateメンバーとしてこの2つのCommunityに対しどのような貢献をして行くかを紹介する。

1. はじめに

弊社は2010年12月からSakai Foundationの企業会員であるSakai Commercial Affiliateになり、海外のCommercial Affiliateと同様、大学にSakaiをベースにした商用サービスを展開している。弊社が国内展開するサービスは以下である。

- 1) 日本の大学が必要とする機能開発
- 2) Sakai システム環境のスポット構築支援
- 3) システム導入後の運用支援
- 4) クラウドサービス展開

また、2011年3月に日本のSakai CommunityであるJa-Sakaiのメンバーに加盟したことで、国内外2つのCommunityに参加している。本稿ではこれらのCommunityに対する貢献の一つとして日本語化について述べる。

2. 日本語化について

2011年9月にリリース予定であるSakai2.9Code Fix版から弊社はJa-Sakai Communityメンバーとして「プロパティファイル」、「オンラインヘルプ」の日本語化に取り組む。対象の範囲は法政大学と名古屋大学が利用する機能とし、日本語表記は両校の資源をベースにJa-Sakai Communityで統一された表記で実施する。翻訳ツールはオープンソースの「Benten」を利用する。弊社が行う作業フローは以下を想定している。

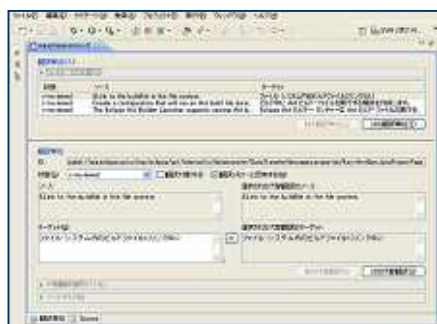


図1「Benten」画面イメージ

翻訳システムの作業フロー

ワールドワイドのSakai CommunityリポジトリからSakai2.9 Code Fix版(以降Sakai2.9)を入手し、翻訳対象機能の中で日本語化されていない箇所を抽出し、「Benten」で翻訳を実行する。このような翻訳メモ

リツールを使用することにより、効果的な翻訳作業が行えると考える。翻訳メモリツールは原文と訳文をデータベースに蓄積して行くことから類似した文章の翻訳において表現の統一化を図る。翻訳したファイルとSakai2.9をビルドし、QAサーバに公開する準備を行う。

QAサーバの作業フロー

弊社は、ビルドした翻訳済みSakai2.9をQAサーバにデプロイし、Sakai Jira上でJa-Sakaiメンバーに対しレビューの依頼を行う。

Ja-Sakaiメンバーは、QAサーバのSakai2.9上で翻訳箇所を確認する。

Sakai Jiraの作業フロー

Ja-Sakaiメンバーは、Sakai Jira上で翻訳箇所の確認結果を記入する。

弊社は、その記入内容を確認し、修正対応や翻訳成果の公開に向けた準備を行う。

mSubの作業フロー

弊社またはmSub管理者は、mSubに翻訳成果を公開する。

3. おわりに

本稿ではCommunityに対する貢献の一つとして日本語化について述べた。弊社はその他、海外Sakaiカンファレンスへの協力や、Bug Reporter活動等を行うことで、国内外のCommunityへの貢献を実施している。今後もこうした活動を行いながら、Sakai Commercial Affiliateとして貢献していきたいと考える。

参考文献

- (1) Sakai Project HP,<http://sakaiproject.org/>
- (2) BentenProjectHP,<http://sourceforge.jp/projects/benten>